

会議録

会議の名称		第1回子どもの居場所部会					
事務局		子ども家庭部子育て支援課					
開催日時		令和2年10月21日（水） 19時から21時まで					
開催場所		小金井市役所第二庁舎8階 801会議室					
出席者	委員	部会長 萬羽 郁子 委員 職務代理 水津 由紀 委員 部会員 北脇 理恵 委員 古源 美紀 委員 鈴木 恭子 委員 鈴木 隆行 委員 谷村 保宣 委員 村上 洋介 委員					
	事務局	子育て支援課長 富田 絵実 子育て支援係長 福井 英雄 子育て支援係 山下 真優 児童青少年課長 鈴木 剛 児童青少年係長 前田 裕女					
傍聴の可否		可・一部不可・不可					
傍聴者数		4人					
会議次第		1 開会 2 検討事項の確認 3 子どもの居場所の現状について 4 その他 5 閉会					
発言内容・ 発言者名（主な発言要旨）		別紙のとおり					
提出資料		1 資料1 子どもの居場所部会員名簿 2 資料2 子どもの居場所部会について 3 資料3 子どもの居場所部会における検討事項 4 資料4 子どもの居場所の全体イメージ 5 資料5 子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（平成31年3月）より 6 資料6 子どもの居場所についてのアンケート（令和2年8月）より 7 資料7 国分寺市子どもの居場所づくりハンドブック					

第1回子どもの居場所部会 会議録

令和2年10月21日

開 会

○萬羽部会長 ただいまから、第1回子どもの居場所部会を開催いたします。よろしくお願いします。

次第に入ります前に、職務代理の選出を行います。小金井市子ども・子育て会議条例第8条第4項の規定により、私が部会長職務代理を指名することになっておりますので、指名いたしたいと思います。水津委員を部会長職務代理に指名させていただきます。よろしくお願いします。

それでは、次第の(2)「検討事項の確認」と(3)「子どもの居場所の現状について」を一括で行いたいと思います。本日は、初回であること、また、皆様はご希望いただいた上で部会員になられたこともありますので、部会員を希望した動機や子どもの居場所に対する思い、また、理想と考える居場所の在り方などについて、今日はできる限り皆様のお考えをお伺いするように進めたいと思っています。そこで、事務局から資料説明を受けた後に、ワークショップの形式で審議を進めたいと思っています。

まずは、事務局から資料説明を受けたいと思います。お願いします。

○子育て支援係長 ワークショップの前に、議論の呼び水となるように情報提供させていただければと思います。

まずは、本日机上配布させていただいた資料の「のびゆくこどもプラン 小金井」ですが、こちらは「のびゆくこどもプラン」から子どもの居場所に関する部分に関して抜粋した資料になります。8ページのところですが、計画の課題と方向性に関して記述しております。その中の、(3)地域における子どもの居場所づくりの推進から抜粋いたしました。

ポイントとなる点についてお話いたしますと、まず1行目のところで、「地域のすべての子どもに配慮されている必要があります」。すべての子どもというところがポイントかと。そのすぐ後にも、「就労家庭に限らず、すべての子どもが」と、繰り返して強調しています。

続いて、4行目のところ。「子どもの生活圏を踏まえた」と。今回の計画改定に当たりまして、新たに追加した文言になります。

その次に、「多様な子どもの居場所づくり」との文言があります。子どもに関して、多様な子どもがいる。それに応じて、居場所に関しても多様な機能がある。多様な子ど

もの居場所づくりが大切ということで、記載しております。

続いて【方向性】の部分になりますが、「今後、子ども自身の育つ権利を保障しながら」との文言があります。子どもの居場所は、子どもの権利保障に資するものでありますが、こちらでは、その中で、子ども自身が育つ権利について記載しております。

その次の行ですが、「安全で安心な居場所づくりを、家庭・地域・教育関係者・市が協働して進める必要があり、これら関係者の連携強化の仕組みづくりに取り組む」と。関係者の連携強化は外せないということで記載しております。

続きまして、下段になりますが、67、68ページの部分で、計画の第4章、子ども・子育て支援施策の取組に関する部分です。「2-3 子どもの居場所と交流の場を充実します」とあります。2段落目ですが、「子どもが一人で安心して過ごせたり、ゆるやかな交流の中で気の合う仲間づくりができる」と。子どもの居場所に関しては、交流に関する話題がよく出ますが、子どもの実際のニーズとしては、交流の場ばかりを求めているわけではなく、1人でゆつくりと過ごしたいといったニーズもあることから「一人で安心して過ごせたり」との文言を入れています。

次の行に行きまして、先ほどと同様に「子どもの生活圏を踏まえた」との文言を入れています。

その次の行の後ろのほうになりますが、「家庭・地域・教育関係者・行政が協働して進めるための仕組みづくり」と、先ほどの関係者の連携強化と近い文言が出てきます。

続きまして、資料の2に参ります。「子どもの居場所部会について」です。こちらに関しては、既に子ども・子育て会議、本体会議でもご説明したところですが、再確認の意味で配布させていただきました。

1の部会の役割ですが、2行目のところで、「子ども居場所のあり方について検討を行い、令和3年8月に本体会議にその結果を報告する」、検討内容としては、(1)子どもの居場所の現状把握・分析、(2)、これがメインのところになりますが、子どもの居場所に係る提言。具体的には、子どもの居場所の目指すべき姿、理念、ビジョン、ここが一番大きいところかと思います。あとは、それを実現するための施策提言等となっております。

2のスケジュールのところですが、先日事前勉強会を開催し、本日を含めて来年7月まで、6回の会議を予定しております。最後に、来年8月、子ども・子育て会議に検討結果を報告して、部会のミッション終了となります。

続きまして、資料の3に参ります。「子どもの居場所部会における検討事項」になります。

まず、1、子どもの居場所の現状についてということでして、全体イメージは資料4のとおりということになります。資料4をご覧くださいますと、こちらは事前勉強会でも配布させていただいた資料ですが、子どもの居場所全体を捉える上で重要な図と考えており、再度配付させていただきました。左のほうにある縦軸が行政の関与の度合い、上のほうの横軸が子どもの年齢、それぞれの軸に対応して、各子どもの居場所がどのように位置づけられるかを図示したものとなります。

資料3に戻りますが、その他子どもの居場所の詳細につきましては、先日の事前勉強会の配布資料のほか、直近の状況としましては、ネットワーク協議会さんの子どもの居場所サイト「えにえに」、近日公開予定で11月1日の予定ですかね、のホームページに出る予定ですので、そちらもご参照いただければと思います。

続いて、子どもや関係者のニーズというところになりますが、まず子どものニーズの部分で、①子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書、平成30年度に現行計画策定のために行ったアンケート結果からになります。資料5になります。こちらは、ニーズ調査報告書の中から、子どもの居場所に関する部分の質問と調査結果を抜粋したものととなります。

1ページが、就学前児童の保護者調査。4ページからが、就学児童の保護者調査。9ページからが、中学校・高校年代の保護者調査。10ページからが、中学校・高校年代の青少年調査。最後、15ページからが、自由記述欄に書いてあったものをまとめたものになります。ここから、子どもの居場所に関する部分を抜粋したのものになります。詳細は資料をご覧くださいいただければと思いますが、ポイントとなる点だけお話しさせていただきます。

資料3へ戻りまして、就学児童の保護者に関しては、放課後過ごさせたい場所は、1位が習い事で、2位自宅、3位公園。1位の習い事に関しましては、保護者の方が教育熱心な部分があるかということと、習い事ですと、子どもがいつどこに行って誰と一緒にかなどを把握できて、安心感があるのではということで、習い事に対する需要が多いものと推察しております。あと、「学習のサポートに対する要望が多い」、こちらも、やはり教育熱心な部分があるのかと思います。

続いて、中学校・高校年代の保護者に関しましては、やはりこちらも自習スペースに

関する要望が多いと。教育面の話が出てくる。あと、子どもの話ですが、中学校・高校年代の青少年の調査結果でも、やはり自習スペースに関する要望が多い。特に高校生になってくると、この割合が高い。日頃したいこととして、「ゆっくり休むこと」が上位に。これも、やはり高校生になるにつれ、ゆっくり休みたいと。勉強・部活で疲れていると。他に健康面に関しても調査を行っているのですが、疲れていて休みたいという希望が見られます。

続いて②になりますが、昨年度、児童青少年課のほうで実施しました青少年問題協議会の子どもアンケートから、関係する部分を抜粋しました。子どもの対象としては、小学校4年生～6年生と、中学校1年生～3年生。質問に関しては、「自由に過ごせる時間に過ごしたい場所」で、ともに「広い、または静かなところ」が1位となっております。あと、中学校年代の特徴としては、「大人がいないところ」の割合が上がっています。右へ行きまして、「自由に過ごせる時間を誰と過ごしたいか」。小学校高学年、中学生ともに「友だち」が1位になっていますが、中学校になると「一人」の割合が高くなっており、「家族と一緒に」の割合が減っています。

③の子どもの居場所についてのアンケート、今年度実施となりますが、こちらは資料の6をご覧くださいと思います。

アンケートの内容に関しては、記載のとおりでして、本年8月に、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が、子どもの居場所に係る運営団体を対象に子どもの居場所についてのアンケートを実施いたしました。アンケート自体、回答があったのは53団体だったのですが、そのうち、下記質問というのは、「現在活動する中で課題と感ずることがあればご記入ください」と。この質問に関し、29団体から回答がありました。

アンケートを実施する前は、課題としては資金面とかスタッフ面の話、あとはコロナの関係が多いのかと思っていましたが、実際一番多かったのは広報の関係で、件数は6件。主な回答は、「広報が行き届かず、新規利用者が集まらない」。これは、先ほどの「えにえに」なんかも有効なのではと考えております。あとは、「あまり宣伝せずに（多くの参加者では困る）、本当に支援が必要な子どもに来てもらうための方法が見つからない」であります。こちらは、こういった子どもをターゲットに絞るかということはありませんが、行政との連携も大きな要素になってくるのではないかと考えております。そのほか、多かったこととしては、場所のほか、資金面、学校・行政との連携、スタッフ、コロナ禍の話と出てきます。

資料3に戻ります。

子どもの居場所に係る提言部分になりますが、これからご審議いただくこととなりますが、まず、子どもの居場所の機能・役割について明確化しておく必要があるのではないかとということで、一般論的な話を記載しています。

想定している居場所としては、「子どもが自らの意思で集まり過ごせる場所」。ポイントとしては、「自らの意思で」という部分で、このことから、営利目的、一定の料金がかかるものに関しては、全ての子どもが自由に行けないので除外される。あと、保護者の就業状況等により制限されるものは除外されるというふうに記載しております。一般論としてはということで、子どもの権利保障に資するもの、具体的には①として、「子どもの生活支援」、食事提供、休憩、孤立防止。②として、「子どもの生きる力を育む」、遊び、学習支援、社会体験、他者交流。「その他、副次的に地域コミュニティの形成に資する」とありますが、子どもの居場所には、そこに関わる大人もいて、大人の居場所の側面もあり、子どもの居場所にさまざまな人たちが集まることによって地域コミュニティが形成されていく。そういった副次的な効果があるのではということで記載しております。

(2)子どもの居場所の目指すべき姿、これからの一番の審議ポイントになっていくところですが、子どもの居場所の機能・役割、あとは先ほどの現状等を踏まえて、目指すべき姿、理念、ビジョン。「イメージとしては10年後の姿」と記載させていただいておりますが、それを描いていただきたいと考えております。

(3)として施策提言。目指すべき姿、現状等を踏まえた施策提言をいただければと考えております。

あと、すみません。(1)で触れなかったものが、資料7になります。こちらは、国分寺市の子どもの居場所づくりハンドブックになります。他市の例で参考になるものということで配布させていただきました。国分寺市の審議会のほうで、2年間にわたり審議し作成したものです。「居場所づくり」とありますので、主な対象としては子どもの居場所づくりに関わっている運営者向けのものになります。この中では、子どもたちへのインタビュー結果であるとか、居場所運営のチェックリストであるとか、あと理念的な話についても記載がありますので、参考になる部分があるのではということで配布させていただきました。詳細は資料をご覧くださいと思います。

事務局からは以上となります。

○萬羽部会長 事務局から居場所部会の役割、子どもの居場所の現状等についてご説明いただきました。これから審議を進める上で、一定参考となる内容だったかと思います。

次に、本日はワークショップの形式で皆様のお考えをお伺いしたいと思っています。特に今日お話ししていただきたい内容としては、先ほどの資料2の中で検討内容がありましたが、その中で、特に子どもの居場所の目指すべき姿ということで、10年後というようなお話もあったのですが、今後子どもの居場所を、どういうふうになっていくといいなという理想をまず最初にお伺いしたいなと思っています。

皆様の机の上に、おもむろに付箋とペンが置いてあるかと思うので、こちらを今日使わせていただきたいなと思っています。何となく、いろんなところでされていて想像がついている方もいらっしゃるかと思うのですが、最初に5分程度、この後時間を取りますので、まず、皆様それぞれが、皆様の立場で、子どもの居場所の理想像というのを考えていただいて、こうなるといいなとか、こういうことができるといいなとか、こういう居場所があるといいなというような理想を、それぞれのお考えで付箋に書いていていただきたいと思います。書くときに、あとで説明をしながら、後ろのホワイトボードを使って皆さんの情報を共有していこうと思いますので、できればすごく細かく書くというよりは、大きめの字で1枚につき1つの項目を書いていくという形にさせていただきたいと思います。1枚に対して何個も書くのではなくて、1枚につき1項目という感じで、思いつく限り何枚も付箋を使っていただいて結構ですし、もし足りなくなったらあるそうなので、足りなくなった場合はたくさん出していただきたいなと思っています。特に名前とかは記載しなくてもいいかと思いますので、内容だけというか、理想と、今思い浮かぶようなことをいくつか挙げていただいて、後ほど共有するという形を取りたいと思います。まずここまで、この後5分ぐらいで書いていただこうと思うんですが、ご質問とかございますか。

○村上委員 すみません。私、今回の会議の事前要望として、福井さんとやり取りをしていたんですけれども、この部会に参加する目的とか、重点的に審議したいことというのを一人一人発表する場をまずつくっていただけるという話だったんだけど、ワークショップの前にやっていただいたほうがいいんじゃないかなと思って。

○萬羽部会長 申し訳ありません。説明が不足してしまったのですが、実は、理想のことを書いた後にお一人ずつ順番に、理想と、あと、そこに関係して御自身の志望した動機とか自己紹介をやっていただきたいなと思っている関係で、順番があれなんですけれども、先にま

ずそれぞれのお考えを書いていただいて、この発表とともに自己紹介というか志望動機、やりたいこととかもお話ししていただくという形にしたいなと思っています。やりたいことというか、考えたいことも含めてそちらに書いていただけるとうれしいなと思うのですが、よろしいでしょうか。

○村上委員 分かりました。

○萬羽部会長 すみません。

では、5分ぐらい時間を取って、また様子を見て時間のほうは考えていきますので、5分間でこちらにご記入をお願いします。

(※各自で付箋記入)

○萬羽部会長 そろそろよろしいでしょうか。

では、ここから皆様に、まず一周回ろうと思いますので、それぞれが考えたものをこちらに何となくお示ししながら、皆さんがここに参加した動機なども含めて理想の居場所というのをご紹介いただきたいなと思っています。私から回って、鈴木恭子さんが最後になるような形で順番に回っていいでしょうか。何となく、ご自身で、これとこれが似ているなというところに貼っていただいてもよいですし、補佐というか、していただけることになっていますので、近いものを何となく分けながら貼っていきたいと思います。ただ、この分け方じゃなくて本当はこうがいいんだけどなど、もちろん思われる場合もあると思うので、それについては後でお話をする機会を取りたいと思います。いったん貼っていくところは何となくで分けていきますが、それはあくまでも見やすくするためという感じなので、後でここはこうだというご意見もお伺いできればと思いますので、お願いいたします。

では、最初に私のほうから。すみません、私、10年先がイメージしにくくてあんまり具体的じゃないんですけど、お願いします。

私が最初に思ったのは、子どもの居場所が大人にとっても居場所になるといいなというので、保護者の方とかもそうですし、子どもだけの居場所もちろん大事なんだけど、大人も一緒にそこに居場所ができるといいなというふうに思いました。あと、ちょっと近いかもしれないんですけど、場所によってはいろんな世代の人が交流をできるといいなと思っていて、これは学芸大に勤めてから、大学の中に小さなお子さんも来るし、学

会とかもそういう雰囲気がすてきだなと思っているので、ずっとそれが続くといいなというふうに思っています。

似ているのが続くのですが、1人になりたいなと逆に思ったときに、その場ですぐ、今日行きたいと思ったときに今日探せて今日行ける場所も必要だなというのと、あとは、初めての人とかでも参加できる雰囲気がいいなと。引っ越してきたりとか、初めてのときに参加できるといいなというのと、これも似ているんですけど、自分の希望に合う場所をいかに見つけられるかというので、ネットだけの情報だと自分が希望しているものと本当に合っているかどうか分からないなというので、こういうところを挙げました。

あと、私が居場所部会を希望した理由としてというか、私自身の専門は、実は住環境ということで、住まいの中の安全とか安心とか、子どもの遊び場でもそうなんですけど、それを、子どものためにつくるんじゃなくて、子どもと一緒に、時にはけがをしたりとか、危ないこともあるかもしれないけど、そうなったときに、何がいけないんだというのを子どもと一緒に考えながら安心な場所をつくっていける雰囲気の居場所だといいな、全てをつくってあげるんじゃなくて、子どもと一緒につくっていけるといいなと思ってこれを挙げました。お願いします。

じゃ、続いて職務代理、お願いします。

○水津職務代理 よろしくをお願いします。

私も、何か精神論で、しかも、縦に書けばよかったのね。ごめんなさいね。まず、ほとんど一緒のところがあるんですけど、異世代交流ということで、先生もおっしゃっていただいたんですが、単純に異世代というよりも、大人と子どもの間みたいな存在ってすごく大事だと思うので、せっかく学生さんとか、専門学校とかがたくさんあるので、そういう方も一緒につくれるような居場所がいいなというのが理想として、小金井だからできることかなというふうに思っています。

あとは、そこに集まる人が、サービスを受けるとかということではなくて、そこにいる全部の人が参加者になるような居場所がたくさんあったらいいなと、そういうものを理想として、私は思っております。

あと、子どもたちが自分の足で行ける場所がないと居場所ではないと思うので、学校ですとか、単位として、生活圏というものは小学校単位があると思うので、そこを中心にいろんなものがあることがいいなと思っているのと、地域の差がないようにしたいなと思っていて、その小学校はいいけどこっちだと何もないとか、そういうのをできる

だけ少なくしたいというのが私の考えです。

あとは、中高生、非常にあっという間に過ぎてしまうので割と忘れられがちなんですけど、どこにいても嫌がられる存在なんですけど、これを、うまく一緒にまとまったらいいんじゃないかなというふうに思っています。そういうものが全て持続可能になるようなシステムづくり、必要な支援がどこにあるのかということも考えたいなと思っています。

これはいつも思っているんですけど、子どもや子育てに関する情報とか、活動とか、支援とか、そういうものが一本化してほしいというのがあって、「子ども」というキーワードでいろんな課をまたがるとか、学校は教育委員会とか何とか、少しでもそういう段差をなくして、一つの「子ども」ということをどういうふうに捉えてみんなで一緒にやっていけるかということができるような仕組みができたらすごくいいなと思っています。私はネットワーク協議会の人間ですので、子どもの居場所の中間支援みたいなことを目指していますから、そういう意味で、こういうような思考回路になっております。よろしくお願いいたします。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

次に谷村委員、お願いします。

○谷村委員 何でここに来たのかということをお話するんですよね。学童代表の保護者としていますが、学童を卒業した後の4年生以降というのが、いる場所に困っているというのは日々思っていて、圧倒的多数が、習い事をぶち込むというのが結構多いんですけど、それはちょっと寂しいなと思っているところがあります。僕自身、習い事って一切やってこなかった人生なので、もっと楽しいことあるよというところで応募しました。

一つ、一番大きいのは、大きな犯罪に巻き込まれない。それとセットで、小さいけがをよくする場所であってほしいかなと。ここから先は、子どもにとってどうというのは、10年後の子どもたちがどうっていうのは、正直想像するのもおこがましいかなと個人的に思っていて、自分がどう楽しめるかということだけですね。といったときに、ものづくり体験をできる場所がほしいなと。三鷹とかに何か、ものづくりできるようなところがあって、あれはうらやましいなと個人的にずっと思っています。

あとは、寝られる。取りあえず、眠いなといったときに誰の邪魔も受けずに寝たい。

大人が楽しめるというのも基本かなと思っています。

あと、子どもと野球とかサッカーをやろうと思っても、市内にボールを使える場所が

ほとんどないので、ボールを使う場所が欲しいなど。

あと、僕は音楽を趣味でやっていたんですけど、音を出せる場所も少ないので、爆音を出せる場所が欲しいなど。

ということで、いろいろあります。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

続いて古源委員、お願いします。

○古源委員 よろしくお願いします。

私も、何か精神論というか、抽象的な感じなんですけれども、まず、すべての子どもが受け入れられる場所であればいいと思います。学校に通っている子どもたちが、放課後も、早い話、みんなで一緒に遊べるような場所があったらいいなと思っております。

先ほど谷村委員のほうからお話が出たんですけれども、私の子どもは学童を利用していなかったんですけれども、お友達のお母さんが、4年生になられたら、週5日習い事を入れなくちゃと、もう二十数年前になりますが、そういうふうに言っていたときに、すごく驚いたことがあるんですけれども、先ほどのデータなんか見ても、習い事をしてる人がすごく多いと。親がそれを望んでいるというのはとてもよく分かるし、状況は変わっていないんだなということは実感をしております。そういう意味で、私がここにきたのも、子どもが本当に自分の本意の放課後の過ごし方ができているのかなという疑問がすごく今はあるということが一つあります。

あと、子どものやりたいこと、望みに寄り添える場所であってほしいなというふうに思います。やりたいことができる、先ほどのボール遊びもそうですけれども、自分がこうしたいと思ったことができる場所が今たくさんあるかなということは疑問に思っております。

それから、ちょっと似たような感じかな、先ほど萬羽先生のほうからお話がありました今日行って今日こんなことがというようなのに近いかなと思うんですけれども、1人の子どもでも、例えば遊びたい日、休みたい日、いろいろあると思うんですね。それで、今日の放課後を今日自分がどう過ごすかというのを決められるような、そういう多様な居場所があったらいいなというふうに感じています。

それから、似たような話になっちゃうんですけれども、子どもが過ごしたいと思う居場所が、イコール親の安心でもあるような場所があればいいなというふうに思います。

コロナの自粛のときに思ったんですけれども、街の中の児童公園に、ふだんは見ない

中高生がいるんです。そうすると、夕方の時間に来た通常利用者の幼児とその保護者が遊ぶ場がない。そういう場面を見たり、それから、大きい公園がたくさんあるんですけども、そういうところにもたくさん自転車で小学生・中学生が来ているのを見ますと、時間があれば子どもたちはやっぱり遊びたいんですね。今は時間がないけれども、場所があれば子どもたちは遊びたいという気持ちがあるんだなということを感じました。

あともう一つは、おうち 기본적으로 安心・安全な場所なんだけれども、そうではない子どももいるということなんですね。このコロナの自粛のときに、おうちにいざるを得なかったけれども、そこが本当に安心な場所だったのかなということを考えたときに、どこかに行くと安心できるよ、どこかに行くと、心の居場所というんじゃないんですけども、そういったものが保障されるよというような、そういう場所があってもいいのかなと思って、どんなときでも、どんな状況でも、一人じゃないって実感できるような場所があればいいなと思いました。

こんなんでもいいですか。ということで、よろしくお願いします。

○萬羽部会長 では北脇委員、お願いします。

○北脇委員 よろしくお願いします。

当たり前なんですが、地域交流があったり、多世代交流があったり、それは、家庭で必ずいろんなことを教わる子たちだけじゃなくて、学校で教えてくれること、家庭で教わることって結構限られていて、外の世界を知らない子が今多いのかなと。あとは、そういう子は困っているのかなということが感じられるので、こういったいろんな方と交流できる場所はすごく大事だと思うので、そういう子のためにもいろんな居場所をつくりたいと思って、私は今回、手を挙げさせていただきました。結果的にさりげなく、社会的マナーを教えてもらうというより学ぶ、押しつけるのではなくて自然に学び取るみたいな、社会とのつながりの場があるといいんじゃないのかなと思いました。

さっき水津委員も言っていたんですけども、歩いていける距離、要はチャリで行ける距離でもいいんですけど……。歩いていける距離で、自転車も十分にとめられる距離がいいですし、もちろん公園とかもあるし、お外で遊ぶことはできるので、雨の日でも遊べる室内の施設も欲しい。結果的に、毎日どこかしら行くところはあるという状態にしたい。

おながすいたら食べるものがもらえる。これは、みんなに何でもかんでも食事を配るということではなくて、必要な子ということで、そういう用意が、必要な方に必要

なものが届くようにというのがさりげなくできるような、そんなシステムがあるといいと思います。

あとは、お話でもあったんですけど、疲れている子とかもいるし、うちの子もそうなんですけど、だらだらして大人に怒られたくないとか、大人に指図されたくないっていう子もいると思うので、こういう交流の場に大人がいるとうるさいな、同世代の子がいて、その子がどう思われるのか嫌だなみたいな、そういうのがあると思うんですけど、なくてもいいんだよ、何していてもいいんだよという、そういう場が欲しいんじゃないのかなと思います。もちろん、何でも話せたりとか相談できたりとか、子どもの「やりたい」をさりげなくサポートしてくれて、危ないことも、先ほどのづくりの話とか、音が出せるとかもあったんですけど、それもこちらに当たるんじゃないのかな。

要は、子どもの力を見守ってくれる、サポートしてくれる人たちがいて、そのためにはスタッフの考えも、共通認識というんですか、今回お話しして、皆さんそれぞれ思いが違うと思うんですけど、そここのところもある程度すり合わせていく。大本のビジョンがあって、細かいところは会議とかそういうことですり合わせていく。みんなで考えるという姿勢、提供する側の認識も大事なんじゃないのかなと思いました。

最終的には、学校でもおうちでもなくて、安心して過ごせるところになるように、そんな場がいいかなと思っています。あとは、様々な経験と、親が帰ってくるまでいい、夜もやっている、そんな感じです。

以上です。願いたします。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

では村上委員、願いたします。

○村上委員 ちょっと皆さんとトーンが違っちゃうかもしれないんですけども、私が、会議自体もそうですし、部会に参画している理由というのは、現役ではないんですけども不登校児の親というところで、実際に学校に行けないという子どもができたときに、本当に行くところがないんですね。もちろん、一般的な児童館があったり、ご紹介いただいた「もくせい教室」とか、いろいろあって、いろいろ行くんですけども、実際に行けるところがあまりなかったというのが起点になっていまして、その場合、皆さん、実際にそういう子どもがいないとなかなか実感できないと思うんですけども、子どもも疲れるし、親もすごく精神的な負担が大きいというのがあります。それと、そこまで言う必要はないのかもしれないですけども、共働きとかもなかなかできないんですね。不登校

の子どもが家にいたりすると、まず誰か1人は面倒を見なきゃいけないし、もう1人も場合によっては仕事を置いてケアしたりとかいうこともあるので、そこが起点になっています。

先日の勉強会で、小金井市の不登校の児童数、たしか中学校で九十数人とお聞きしたんですけど、比率からすると、多分4%前後。全国の統計を見ても大体そのぐらいだと思うんですけども、4%という、その基準が定義されていると。前回出ましたけれども、30日以上学校へ行っていないというところなんで、実際には半日登校とか、形式的なところを入れると、少なく見ても倍はいるんじゃないかなと私は思っていて、中学生で1割ぐらいの不登校者がいると思うんですね。そこが、なかなか声を上げられないので、そこに手が届いていないというところに対して何かしら考えていただきたいというのが参画の起点になっています。

ちょっと違っちゃうのでここに貼りますけれども、まず前提としては、今の話なんですけど、理念という話が前回出ましたが、理念としては、誰一人置き去りにしない。今、SDGsっていうやつで使う言葉ですけども、そういう居場所づくりを、もちろん児童館だとか、皆さんが言われたこともよく分かりますし、重要なことだと思うんですけども、困っている人にも重点的に考えてほしいなというふうに思っています。

あとは、さっき言いましたが、精神的に、経済的はいらないですけど、精神的に負担の大きい子ども・親を重点的に支援する居場所を考えてほしいなというのを思っています。似たようなことで、不登校って周りにも結構いらっしゃるんですけども、なかなか外に対して自分の子どもは不登校ですとか、まだまだ言えない人が多くて、私の友人の中でも、私のほうから自分の子どもは不登校なんだよと言うと、実は私の子どももそうなんだとか、知っている人がそうなんだとか、話が出てくるんですけど、なかなか声を上げにくいので、理念としては、声を上げにくいことで悩んでいる子どもとか親に手を差し伸べられるような形の居場所をつくってほしいなと思っています。

具体的なことはこれからこの会で進めていかれると思うんですけども、私がイメージしているのは、この場で言うことじゃないのかもしれないのですが、うまくやるためには行政主導じゃなくて当事者が主体になったような運営がどうしても必要なのかなというふうに思っていますので、そういったことを検討していただきたいというのがあります。

最後、先日の勉強会でもフリースクールのことが、小金井市のフリースクールがあっ

て、リストの中に入っていたと思うんですが、ご存知の方もいらっしゃると思います。フリースクールっていっぱいあるんですけども、私も行ったことがあるんですが、財政的支援がないので、運営されている方も、多分、自分の子どもが不登校で、何とか支援したいと思ってやるだけですけども、運営している方も結構いろんなラインできついし、実際にそこに行かせるとなるとものすごい金額がかかるんですね。あと、今通信制の高校とかがよくあると思うんですけども、フリースクールで高校併設みたいな、ものすごく多くて、実はうちの子どももそこに行っていたことがあるんですが、かなり高いんですよ。非常に費用がかかるというところで、私のイメージは、ポイントは2つ、不登校というところにある程度フォーカスすると、行政主導じゃなくて当事者主体・民間主体というのが一つポイントだと思っています。あとは、財政的支援ですね。東京都の創生事業でしたっけ。子どもの居場所創生事業って、モデルプランみたいなのがあって、具体化できるのか分からないんですけど、仮にあれをベースに具体化したとしても、もうちょっと財政的な支援がないと、多分運営自体もそうですし、参加する方の負担も大きいんじゃないかなと思っていますので、財政的な支援的なことも、この場の話題としていいのかどうか分からないんですけども、実現させるためにはポイントかなと思っていますので、述べさせていただきました。

以上です。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

では、鈴木隆行委員、お願いします。

○鈴木隆行委員 この会に参加した理由ですけども、そもそも僕、居場所がないというのがよく分からないとの立場なんですね。事前勉強会を欠席していたのに、そんなことを言って申し訳ないんですけども。

後出しじゃんけんみたいな話なんですけど、今聞いていると、何かやろうと思ったときにそれができる場所があるかとか、こういう体験をさせたいと親とか保護者のほう、大人のほうから思ったときにそういう場所があるかという、そういう感じの話がいくつか出てきた。だけど、僕が今、親として思う居場所がないって、ちょっとそれとは違って、学校から帰ってきて、もしくは学童から帰ってきて、ちょっと遊びに行ってきたり、家にいてくれるんだったらそれでもいいんだけど、家ではつまらない、それ以外の場所が欲しいといったときにはないというのが、居場所がないということなのかなと思うんですね。

じゃ、何でそれが駄目なのかというのと、1つは、危ないからそこには行くなというパターンですね。この辺にありましたよね。犯罪に巻き込まれないとか、安心・安全な場所、両端に寄っちゃっていますけれども。僕、家から出ると、車が危ないなと思うので、行政側というか、子ども側ではなくて、何かすることがあるとしたら、車の制限とか、もっと地域として安全な場所をつくるというのを何かしたいなと。今、具体的に書くと、車の進入マークの制限とか書きましたけれども、今いるその場所が居場所なわけなので、そこが大丈夫だったらそれでいいと。うちの周りでも、道路で遊ぶ子はいるんですけども、そこが場所になり得るかというところがまず大事だと。小金井市の中でも、主要道路は車が通るとしても、それ以外のところはちゃんと、別にどこにいてもいいんだと。大人の日も届き、犯罪にも巻き込まれず、事故にも遭わないというような場所があれば、それはもう居場所だと思うんですけども、そういうのでいいんじゃないかなと。何もするなと言っているわけではないじゃないんですけど、それができれば一つ理想だなと思っています。

あともう1つ、僕が困るのは、雨の日の場所がないという、こちら辺にもありますよね。本部会のほうでも言いましたけれども、児童館とか公民館って具体的に書いていますけど、とにかく箱というのがあれば、取りあえず何をしたいから行くんじゃないで、そこに行けば何とかかなというような場所がつくれればいいかなと。僕の理想ってほとんどなくて、駄目だっていうのがよく分からない。だから、とにかく自由な場所をつかって、どういうふうにしてもいいよというところさえあれば、あとはその運用で、その次の話としてそこで何をするかだとか、箱物を造るのは大変なのかもしれないですけども、そういうことをもうちょっと議論してもらえたらいいなと思って、この件に関しても素人ですけども、そっち方向で意見が言えたらなと思って参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○萬羽部会長　鈴木恭子委員、お願いします。

○鈴木恭子委員　私がこの会に参加したのは、子どもが幼稚園に上がるまでの4年間、日々一日をどう過ごそうかと、それこそ市報であったり、市の各部署のサイトであったり、水津さんの紹介されたサイトであったり、とにかく血眼になって探して、一日3個とか4個はしごしたりして、居場所を非常に活用させていただきました。何で私はこんなに居場所を利用するのかなと考えていた中で、もちろん、今この瞬間を親子が健やかに育つためにと理由もあるんですけど、突き詰めていくと、今の世の中、大人ですら居場所をつく

ったりすることが非常に難しい状況であったりする。その中で、子どもの頃から、自分たちがゼロから居場所をつくる経験であったりノウハウを積んでほしい、仲間づくりのやり方を経験してほしいといった意味で、うちの子どもをいろんなところに連れていかせているのかなと思って、「子どもたちが自分たちの力で居場所をつくり出せるノウハウや経験を身につけられる場所」。先ほどの資料にも、小学生が求めているもので「大人がいない場所」とあって、会議とかでも皆さんと一緒に話を出しますが、子どもの声ってどこまで反映できているのかなと思ったときに、子どもたちが自分たちでこういう場所欲しいよねと思ったときに、すぐ実行に移すことができる場所があったらいいなと思っています。

あと、多世代交流。皆さんもおっしゃっていたことなんですけど、多世代というと、例えば子どもたちと高齢者とか、そういったイメージが多いと思うんですけど、もちろんそれが必要なんですが、私自身もそうなんですけど、晩婚が進んで兄弟を持っていない家族が結構私の周りにも多くて、そうすると、兄弟間で学べることを私は子どもに経験させられていないんじゃないかという不安が常に付きまとっています。もちろん、学校とか保育園・幼稚園へ行けばほかの学年の子たちにも会えるんですけど、やっぱり学校と生活とは違うので、学校や教育機関とは別のところで多世代交流や、学年が違う子どもたちが交流できる場所がもっとあればいいかなと思っています。

「子どもたちがぼろっと発する本音や表情を市民が感じられる場所」。子どもが成長するにしたがって、なかなか子どもの本当に思っていることとか望んでいるものを、大人の色眼鏡をかけずに吸い上げるのって難しいなと思っていて、意外とほかの子どもさんを見ていて、実はこう思っているのかなとか、この世代の子はそうなのかなと思うことがあるので、そういったことも地域の大人たちが知っていると、また居場所づくりに生かせるのかなと思います。

村上さんのご意見と同じような感じなのかなと思うんですけど、自分が属さない場所を理解し、尊重し合える街の雰囲気といえますか、やっぱり子ども、大人もそうかもしれないんですけど、自分たちが当事者じゃないと、自分には関係がないからといって理解しない居場所であったり環境ってあると思うんです。そうすると、実際に自分がそうになった瞬間に「ああ、どうしよう、どこに行けばいいんだろう」と思ってしまうこともあるし、例えば学校に通えなくなった子たちに対して理解が進まないこともあると思うので、互いに尊重し合える雰囲気があればいいなと思います。そして、それに伴って、

様々な選択肢が居場所のジャンルとしてあればいいのかなと思います。

小金井の子育てというところで、一番推せるポイントはやっぱり自然だと思っていて、先ほどのものづくりであったり、けがができる場所というところで、大きい公園が3つあるので、そこを利用して活動されているプレーパークさんとかもあると思います。そのプレーパークさんの事業として、けがは自分の責任だよというところもあったりするので、ここも持続的にみんなが利用できる場所として活用できればいいかなと思っています。

先ほどお話があったので、コロナ禍で多世代がすごく自然に公園に集まって、ちょうど公園遊びが駄目と言われていた後、じゃ、公園遊びはいいですよと言われたときに、武蔵野公園に、本当におじいちゃんから赤ちゃんまでがわーっと集まったときがあったんですね。感染症の意味では、もしかしたらお粗末だなというところはあったと思うんですけど、そのときに、例えば高校生が一人で、部活でクラリネットを演奏していた。それも公園としてはNGかもしれないんですけど、それに小さい子が話しかけていた。1人で釣りをしている男の子に、近くにいたおじいちゃんが話しかけていたというのが自然に繰り広げられていて、もし習い事とかがなかったらこんなに集まるんだというのが実感として感じたので、音楽も、平日は野川公園や武蔵野公園はすごく閑散としているので、何かうまく活用できるんじゃないかなと日々思っています。

あと、活動の各団体の広報。肌感覚として、前回水津さんが作ってくださった各団体の資料がありますが、あれだけ活動があるのに知らない方が非常に多い。私はいろいろな居場所をやらせてもらったんですけど、周囲の人と話していて、「え、知らない」

「そんなのあったの？」っていう意見がすごく多いです。もったいないなと思っていて、先ほど事業者のアンケートがありましたけど、広報がうまくいかないと。広報がうまくいかないことによって、運営の人が集まらない。それが、もともと市の業務の事業だったら給料とか、いろいろ発生するんですけど、市民の皆さんが善意でやっていらっしゃるものはボランティアベースでやっている場合が多くて、ボランティアの母数が多ければボランティアで済むところが、ボランティアの母数が少ないことによって仕事みたいな状態になっていることも、もしかしたらあるのかなと。そこを仕事とするのか、ボランティアのまま維持するのかというのは団体さんが決めることなんですけど、いずれにせよ、広報がうまくいってたら運営団体が持続的に活動できる体制ができて、一人一人の負担も減るのかと思っています。広報が、いろいろ手法とか、個性でやっていらっ

しゃるので大変かと思うんですけど、もうちょっと何か工夫できたらいいのかなと思います。

以上です。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

皆様、ありがとうございました。これで部会員全員の意見がこちらに出てきたかなと思います。この後、話し合うとき、キーワードとか出るといいので、少し並び替えをしていただこうかと思います。

(※付箋の配置整理)

○萬羽部会長 では今からいったん20分くらいで、様子を見て足りなければ延長しようかと思うので、30分まで話し合っていこうかと思います。

今赤字になっているのはとりあえず分けたときのグループになっているので、これから考えていただきたいのは、これから居場所づくりをどういうキーワードで理念を作っていくかというところでキーワードを出していただいたり、足りない部分がありましたら付箋を追加して新しいものを書いていただいても構いませんし、今機能がざっくりになっているので、それをもう少し分けてキーワードを出してもらうよう話し合っただければと思います。話し合った内容を20分後にそれぞれ報告していただきたいと思うので、私と水津職務代理以外の方で発表していただきたいので、発表者を決めるころまでお願いしたいと思います。

では、それぞれ分かれて自由に話していただきたいと思います。お願いします。

(※2グループに分かれて意見交換)

○萬羽部会長 では、ご報告をお願いします。ホワイトボードを使われるようであれば使っていただいてもいいですし。

○北脇委員 付箋を増やしたのは、学生ボランティア活用の拠点をつくるというのと、あともう1つ、今ある建物を再利用したい、資金援助してほしいというのを入れました。私たちが話したのは、結構、取っ散らかっちゃっていて全然まとまっていないんですが、まずは、場所は必要だね、なんですけど、建物を造ったら——箱物を造ったらそれでおしまい

ではなくて、仕組みをつくってほしい。

先ほど村上委員もおっしゃっていたんですけど、当事者というのはすごく大事で、当事者だから分かること、当事者だった人も数年たつと喉元過ぎれば忘れちゃったりするんですよ。だから、今困っている人たち、今考えている人たちの話を聞いてくれる場、解決しなくても、全部解決できるものではないのでいいんです。取りあえずここに来れば話を聞いて、行政へ届けてくれるとか、しかるべきところへつないでくれる、もしくは相談先を紹介してくれたりだとか、そういうところがあるという、ここに行けば大丈夫みたいな、そういう仕組みづくり、システムが欲しいよねという話が出ました。

ほかに、大人も楽しんでいるところが子どもも楽しめる場所なので、そういった目線というか、視点というものも大事だよねという話が出ました。

そんな感じです。

何か、あと、フォローお願いします。

○水津職務代理 十分ですよ。

○古源委員 多世代交流という中に大学生の活用というのも一つあるんですけども、中高生の居場所が少ないという話も出まして、中高生も、居場所として場所を用意するだけではなくて、何か役割をもってその場所で活躍できるような、そういった仕組みもあればいいよねという話も出ました。それから、大人が楽しむ姿を見せたり、大人の楽しみを一緒に共有することで、子どもも何か得るものがあるというような話も出たんですけども、子どものためのサービスを提供する場所ということではなくて、みんなで楽しめるような場所を創出する。でも、そのためには、大人もその場所につながるような仕組みづくりが必要だねというような話をしました。

○谷村委員 みんなで話した内容じゃなくて、僕一人だけでずっと話していた内容としては、小金井市として、市の中の市民の生活・ライフスタイルのレンジが狭いと思っていて、飛んでいる人が少ないかなというところで、社会の包容力というのがちょっと狭いかなと、個人的に思っています。そういう意味でいくと、何かもっと飛んだ施設があつていいのかなと。何か面白い、レコード屋さんとか、大人がそっち行っちゃ駄目よっていう雑居ビル、面白いやつとか、子どもだけでも、ぎりぎり、多少かぶっても、犯罪ちょこっとやるぐらい、もう……。そういうのだって社会経験だと僕は思っていて、そういう幅広い、端っこのコミュニティがいろいろあつたらいいなと思っています。

僕が話したのはそんな感じです。

こちらのテーブルは以上になります。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

では続けて、こちらで報告していきたいんですが、まとめることは諦めて、一人一言ずつ、話し合ったことの中で印象に残ったことをお話しいただきたいなと思います。

村上委員からいいですか。

○村上委員 最初に話が出たのが、多様性のあるというところで、かなり幅広い世代が集まれるところを具体的に考えたときに、それが子どもにとって必要なのという話が出て、そこがまとまらなかったんですけども、一つのイメージとして、小金井市の方の前で言うのはあれですけど、武蔵野プレイスが、世代の交流があるかどうか分からないんですけど、私も利用したことはありますが、まあ、いろんな世代が来る。かなり工夫した、若者にもそれなりに行くメリットのある場所になっているなという話が出ました。

そんなところですよ。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

鈴木隆行委員、お願いします。

○鈴木隆行委員 多世代交流の話を割としていて、多世代交流をしたほうが良いと思っているのは大人で、子どもが多世代交流をしたいとは思っていないと思うんですね。僕が一方的に言っていたのかもしれないですけど。我々として何を指すかという、多世代交流をしましょうよというよりは、多世代交流ができる場所づくりなのかなという感じの話をしました。つまり、こっちから用意するのは次の段階で、まずは子どもが集まれる施設じゃなくて、子どもだけでなくいろんな世代の人が共通に集まれる場所をつくって、集まっただけじゃそれぞれのことをやっているだけで交流にならないから、次の段階としてイベントなりを発生させて交流をするという、2段階に分けるべきかなというようなイメージが少しあったかなと思っています。どの段階のどういうことを議論するかはこれからの話だとは思いますが、とにかく、やらせたいことなのか、やりたいことなのかというのは、子どもがやりたいことなのか、こっちが体験させたいほうが良いと思っていることなのかというところが混在しているなというのが、さっきも言いましたけど気になっていて、多世代交流というのはそのうちの一つかなというふうに思っていたので、僕はこっちでもその話ばかりしちやいました。

以上です。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

鈴木恭子委員、お願いします。

○鈴木恭子委員 もうほとんど言っていたんですけど、ベースとして話の中に出てきたのは、鈴木委員が言ったように、子どもが実際にやりたいことと大人がやらせたいことに齟齬があるのではないかという話で、多世代交流の札が何個かあったので、多世代交流の話から始まりました。理想としては、武蔵野プレイスみたいな箱があって、誰でも集まれて、「よし、多世代交流だ、こんなイベントあるぞ、どうぞ、どーん」みたいな感じではなくて、そういうことを自発的に、こういうのをやりたいと、子どもであつたりほかの世代の人たちであつたりが自分たちで自発的に出してきたものに参加するというやり方のほうがうまくいくんじゃないかなという話がありました。武蔵野プレイスみたいな場所がアクセスのしやすい場所にあって、例えばなんですけど、蛇の目のあった地帯にできて、市役所の近くにあって、例えばこういう企画をやりたいとなったときに、子どもであつたりほかの世代であつたりした人がすぐ市役所の人に相談できたり、それは形だけであってもいいんですけど、そういう自発的に何かするという経験が積めたりしたらいいんじゃないかなと。それは個人的な意見なんですけど、そんなことを話したりしました。

○鈴木隆行委員 もう1個、ボランティアの話が出てきていまして、スタッフをどういうふうを導入するかとか、ボランティアをどうするかという話があったんですけども、ボランティアというのは結局、結構その人の力量によっちゃうし、サステナブルではない、その人がいなくなっちゃったらよくあつたものができなくなっちゃうというがあるので、その辺の在り方というのは検討しなきゃいけないかなという話が出ました。場合によってはフィーを出してちゃんと仕事にしないと駄目なのかとか、そうすると責任の範囲はどうなのかというのは考えるべきことなのかなと。10年、20年と続くものを考えるのであつたら、人的資産の部分も考えなければいけないなというような話は出ていました。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

それぞれの発表を今聞いて、お話しした内容が何となく伝わったかなと思うんですけど、全体というか、両方、多分結構似ている話が多くて、1つは、多世代交流というちょっと語弊があるかもしれないんですけど、多様な人々が集まれる場所というのが一つキーワードになっているのかなと思っています。交流するかどうかというのは、もちろん子どもの意見を尊重しなくてはいけないので、子どもが交流したいというときにはつながれるような、いろんな人が集まれるような場所をつくるということが一つあるの

かなと思いました。

もう1つが、場所だけだとやっぱり続いていかないということで、仕組みづくり、ボランティアの話とかも、前回の勉強会のときにも出ていた話ともかなり近いと思うんですけど、仕組みとか運営で、どうやってそれを持続していくか、今後長い間それを続けていくためにはどういう仕組みづくりが必要になっていくのかなというところが入ってくるのかなと思います。

あと、すみません、さっき言い忘れちゃったんですが、多世代が集まる、いろんな世代が集まるといったときに、やっぱり子どもの意見、子どもの気持ちが一番重視されて尊重されなくちゃいけないですし、一方で、子育てをしている大人たちもいますし、そうじゃない大人たちもたくさんいるわけで、そういう大人たちも一緒に楽しめるということ。みんなが無理やり集まる場所をつくるという意味ではなくて、子どもにとっても、それを囲んでいる大人たちにとっても楽しめる場所という、そういう場所が欲しいなのというのは2つのグループとも通じていましたし、運営とか仕組みをつくっていくというところもかなり似たような問題点として出ていたのかなと思います。その辺りを今後、また検討していきたいなと思います。

今日は話題をいろいろ出していただいて、こういう視点で今後考えられたらいいなと思っているので、大きく分けると場所づくり、みんなが集まる場所をつくるためにはというところと、それを運営していくというところが大きくなるのかなと思うんですけど、その辺りをもう少し細かく、次回以降お話をしていきたいなと思います。

では、まとまっているのかまとまっていないのか、自信がありませんが、そろそろ時間になるんですが、もし言い足りないなとか……。

はい、お願いします。

○水津職務代理 先日お知らせして、見ていただいた方は見ていただいたかと思うんですけど、ネットワーク協議会のほうで子どもの居場所についての勉強会をした中で、その講師になっていただいた森本先生からいただいた居場所の定義。3つあるとするならば、そこに大人と子どもとの程よい距離感があること、異年齢というのは多世代だけじゃなくて、少し上の子どもの姿を見て自分が成長する目標をつくる場所、昔、ガキ大将的にあったものを、あえて、そういう場所が必要なんじゃないかということ、そこに遊びがあるのかということが居場所の定義として必要なことだとおっしゃっていました。その辺のことを踏まえて考えられたらいいかなと思いますので、また次回以降、よろしく願いいた

します。

○萬羽部会長 遊びの辺りは、運営というとなきくなり過ぎちゃうんですけど、仕掛けづくりとか、どういうふうに、全てを与えるんじゃないくて、子どもたちが遊べるような仕掛けをつくるみたいなのところも必要かと思ったので、今のお話も踏まえて今後検討したいと思います。

それでは、このような形のままであれなんです、今日の次第の(2)及び(3)については以上となりますが、事務局からは特に大丈夫ですか。

○子育て支援課長 今日お話しいただいたキーワードなどを基に、まずは事務局と会長、職務代理とで打合せをさせていただいて、次回以降の議論のテーマについての整理を少ししておきたいなと思います。その上でないと、次回の会議をやりましょうといってもなかなか難しいと思うので、少し修正というか、整理のほうをまずはして、その上で資料などご提供できるものがあるかどうかを検討し、次回の会議までに何らかお送りできるものがあればお送りするようにしたいと思っています。キーワードをいただいたものと、これをまとめたものについては、この後写真に撮って、今回、会議録はなかなか全て公開することはできないので、写真を後日ホームページなどで公開して、今回の会議の資料の一つとしたいと考えています。

以上です。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

では、本日の審議事項は以上となります。以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。